

ホーム名：グループホームしおかぜ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を額に入れて、一番見やすいところに掲げている。月1回行われるグループホーム会議においても理念をもとにした支援が出来るように討議している。	しおかぜの理念はリビングの上部に掲示されている。理念の主旨は、入居者の生き甲斐と地域参加に要約される。職員は入居者との共同生活の中で、理念の実現に向けて手厚い介護支援を実践している。	事業所の入居者に対する家族的な支援は、職員同士で共有されており、理念の主旨に副ったものである。この方針はこれからも堅持されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎日、近くの商店街に買い物に行っている。地域の盆踊りや商店街の催し物に参加、毎日の散歩では顔見知りの方と挨拶を交わしている。入居者が隣に回覧板を回しに行ってくれている。	地域の中に於ける事業所の役割を大切にしている。近所のイベントに参加したり、八幡屋商店街に買い物をしたりしている。近所との交流は図られており、理念は実践されている。	ホーム独自の活動である「しおかぜまつり」を、今以上に広報発展され、交流に努めて頂きたい。地域での事業所の理解が更に高まるものと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解していただくために、またグループホームを知っていただくために『しおかぜまつり』を行い地域の方に来てもらい、入居者が参加する様子を見てもらう、また相談などを受け付ける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域からの委員方々に入居者の現状報告や行事への参加の呼びかけ、またご家族からの相談や質問等に答え、議事録はそのたびに全員に郵送している。地域包括の方には、地域の行事の連絡、勉強会の呼びかけ、相談等してもらっている。	2か月毎に開催される運営会議には管理者、職員、家族代表、地域包括職員が参加される。町会長も加わる事もあり、話し合いは多岐にわたり、事業所内のイベントや家族会、忘年会にも及ぶ。その報告は議事録として家族にも郵送される。	新しい活動や取り組みについては、一層の広い視野での意見も参考になる。従来からの参加者に、他の分野からの人材を加えられる事を検討され、会議の充実を図られるようお薦めしたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に一度、家族、地域包括、町会長、職員が集まり、話し合い、情報の共有や意見を出し合っってケアサービスに反映できるように努めている。	現在、市との連携においては地域包括センターを介しての関係が主たるものである。今後には、事業所と市の直接的な協力関係の構築を目指している。	事業所が地域のグループホームとして運営するにあたり、市との密な関係である事が望ましい。常に相談、指導を求められ関係維持に努められたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	ゆったりとした雰囲気、入居者の個別に合わせ事故発生の予防を念頭に置き、現在、拘束する事無く過ごして頂いている。	身体拘束はしない。これは本ホームの基本方針である。家族とは十分な話し合いが行われている。入居者は職員の十分な見守り支援を受け、自由な環境の中でゆったりとした生活をしている。施錠はしなくても、見守りに徹する事により安全は確保されている。	身体拘束のない支援は理念のひとつである。「個人の意思や思いやりが優先される」という基本精神が守られている。職員の温かな支援が、今後も継続されるよう期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議で虐待防止の研修を行うことで、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者がいることから、その制度を理解する必要があることから、研修への参加を呼び掛けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>速やかに必要な書類を用意し、丁寧に説明を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で出た意見や施設内に設置している意見箱にある意見書を毎月一回、事業所向上委員会にて討議し迅速に対応できるように努めている。</p>	<p>事業所を訪問した家族には、職員から話し掛けをして、会話の中から、意見や要望を集約し、事業所内の会議に提起するようにしている。現在、運営に関する事柄では、特に家族からの不満や要望は聞かれていない。</p>	<p>入居者に対する支援が、家族の方々に強い信頼を得ているようである。意見箱も虹の箱と改名するなどのソフトな対応も、家族の共鳴を得ているようである。今後も、家族の意見が反映しやすいような態勢作りを堅持されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月のグループホーム会議・法人職員研修・年2回の職員総会を開催し、参加できなかった職員に対しては個別に周知している。グループホーム会議では職員同士が意見交換を行い反映できるように心掛けている。</p>	<p>職員の意見や提案は、事業所内の会議で参加された時に発言される。また平素の会話からも参考にされる。事業所は職員の意見の反映が出来るよう考慮している。</p>	<p>職員の意見や要望は、事業所の発展の為には不可欠な要素である。これからも、日々の業務の中で、職員が気づいた事なども参考にされ、入居者の為のグループホーム作りを目指されて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人代表者と職員代表者との話し合いの場を設けている。そして、議論を重ね必要な事項は改善され調整が行われている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現場での直接的指導及び、法人内研修、地域密着型事業者連絡会、グループホームネットワークなどの外部研修に参加する事で、職員の育成に努めている。介護職員初任者研修へは奨学金貸付を利用し、受講しながら勤務している職員がいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワークへの参加、港区の地域密着事業者連絡会への参加。現場職員も参加し交流学习会を実施している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの訴え、また言葉に出すことが出来ない場合もあり、それまで関わってきた事業所と連携する事や家族からの情報など、職員は様々な角度から本人の要望を感じ取り信頼関係を構築できるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>些細な事でも電話連絡等含め、相談している。面会の際は本人の様子を報告し安心してもらえるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当法人内にある他事業所とも連携し本人、家族を交えて話し合っている。医療等専門的分野に関しては、医師、看護師にも参加してもらい担当者会議の機会を持っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者同士の家事での協力や話し相手ができるように食卓の座席の配置などを工夫している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会時間は自由に行っている。日常の生活の報告や相談も面会時に行っている。行事の参加や、野菜作りの手伝いなどもしてもらっている。面会に来ることの出来ない奥様のご要望で時々入居者本人を自宅に送って過ごしてもらっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の商店街に毎日買い物に行っている。馴染みの店や、道で声をかけてくれるお知り合いの方がおり、関係が途切れないように支援している。</p>	<p>事業所近辺には八幡屋商店街以外にも服屋、理髪店、美容院、パン屋もあり、入居者には馴染みの場所になっている。商店街には週に2、3回は買い物に出かけ出会う人達と挨拶などをする。いまでは入居者の新しい生き甲斐にもなっている。</p>	<p>入居者の一人ひとり違う好みの店や場所に合わせ、可能な限りの関係維持を図られていたい。新しい店や場所も考慮され、今後の進展に繋がられるよう期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事は一つのテーブルを囲み、みんなの顔が見える・そして、自然に会話ができたり、時には協力して家事に取り組めるような場面もある。入居者みんなが協力して洗濯を畳み、配ってくれている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した後も、定期的にご連絡を差し上げたり、グループホームにも立ち寄ってくださっている。サービスが終了したご家族同士が連絡を取り合っていたり、今入居されている方の元気な様子を見に来られることもある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、スタッフと協力して些細な事でも共有して本人の思いを受け止められるように努めている。担当者会議で家族や医師も意見を取り入れている。	今日では、事業所内での日々の生活から、入居者の僅かな表情を読み取り、健康状態までわかるようになっている。職員は互いの観察の共有をして、適切な支援のあり方を検討している。	自分の意向をうまく表現する事が難しい入居者には、特に職員同士でよく話し合われて頂き、こちらからも、少しでもその入居者の意向を汲んで頂けるようお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人、ご家族から日々情報を得られたことを日誌に記録して情報を共有している。また、毎月のグループホーム会議にて意思を統一できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、体調に合わせることが出来るように、記録と申し送りで情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員、その他関係者と話し合う。また、必要に応じては、医師、看護師、法人内のPT、STに助言や指導してもらいより良い介護計画が出来るようにつとめている。	介護計画作成については、13年の介護経験をもつ担当者を軸に、職員や家族、福祉関係者の意見を採り入れ新しい目標作りをしている。長期短期の計画を基に、見直しが必要な時には、その都度、適切な対応をしている。	関係者の多くの意見が反映され、入居者の介護支援に活かされている。今後もこの態勢を堅持させて頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録類の記入を行っている。申し送りノートは、体調や医師からの指導を記録するノートと、その他、生活・身の周りを記録するノートに分けて活用している。勤務交代時の口頭による申し送りも欠かさず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出かける事が好きな方はデイサービスの送迎車でのドライブや、衣替えに自宅へ同行、週末、自宅で過ごす為の送迎を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や近所に住んでいるご家族から情報を得て、地域のイベントに参加する事に努めている。八幡屋支部へ参加し、地域のイベントの情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師が2週間に一度定期的に往診を行っており、かかりつけ医として適切な医療提供を行っている。入居前からの馴染みの歯科を継続して利用している方もあり、家族と職員で協力して支援している。	入居者の診察は協力医である、みたと生協診療所が行っている。家族の要望があれば事業所と家族が十分に話われた上で、かかりつけ医の診察も可能である。	家族の要望を大切にされており互いに深い理解関係が見受けられた。これからもこの信頼関係を維持して頂きたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約しており、週1回の健康チェックを依頼している。それ以外にも、体調の変化時や相談も診療所の医師、看護師と連絡を取り合い迅速に対応できるように努めている。日中はデイサービス看護師、施設長が看護師である事から相談しやすい環境にあ</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と家族と連絡を取り合い状況の把握をしている。また、可能なかぎり病院へ直接訪問し、医師、看護師に会い情報を共有できるようにしている。退院時は診療所の看護師も含めた合同カンファレンスで退院後の安心した生活が出来るように努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族とは、入居前から終末期の対応を説明し意向を把握している。終末期は早い段階から、医師を含めたカンファレンスの機会を持ち、必要に応じて、何度も開かれ本人、家族、職員が安心して終末期を迎える事が出来るように努めている。</p>	<p>重度化については、本ホームの入居時に詳しく説明をしている。一人身の入居者には、後見人と話し合われている。入居者が重度化し治療的介護が必要な場合は、適宜、最善の病院へ搬送されている。回復時にはホームに戻り、ここで生涯を送る事もある。本ホームはこれまでも幾多の看取りを経験されており、家族からも厚い信頼を得ている。</p>	<p>家族・入居者・職員の絆は厚く、人生終末期の介護についてもいつも懇切丁寧な話し合いが行われている。入居者にとっては、ホーム「しおかぜ」は我が家そのものである。この温かな家庭環境で生涯を過ごせるよう、これからも愛情ある介護支援を続けて頂きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ会議の際に事故発生時の対応について確認している。ある程度予測される急変についても事前に診療所に相談している。緊急連絡先や職員の連絡網も掲示している。季節的発生しやすい事柄についてはグループホーム会議で研修している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練で通報訓練を実施している。津波による被害が予測される地域なので近所の高層住宅への避難を周知している。近所の地域理事に緊急時の応援を依頼している。</p>	<p>避難訓練は年2回あり、内1回は消防署の立ち会いで実施されている。防火設備は各居室に消火器が配備されている。調理場はIT調理器を使用し、ガス漏れの心配はない。津波対策では避難先の確保がなされている。近所からの協力については、現在、検討中である。</p>	<p>災害発生時における実際の避難については、想定外の混乱も考えられる。これを重要な課題とされ職員間で討議されるように望まれます。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の方は人生の大先輩であるということを常に念頭に置いて接している。と同時に、家族のような堅苦しくない温かみのある会話や関係性が持てるように努めている。	職員が入居者と親しみのある愛称で呼び合う中にも、常に人格やプライバシーを損ねないように意識している。特に着替え時や排泄介助時には、部屋を閉めるなどしている。	人格の尊重やプライバシーの確保についての話し合いなどは、定期的なものが望まれます。当ホームの人格とプライバシー確保については、今の水準を維持されるようお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望される事を応援し、出来る限り自己決定を尊重している。はっきり言葉に出せなくても表情や行動を読み取り本人の意思に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、個々のペースに合わせた生活を過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物は本人と一緒に行き選んで買ってもらうようにしている。散髪のタイミングや店も本人や家族と相談している。衣替えを本人と一緒にを行い季節の服を選びやすいように整理している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と相談し決定するようにしている。調理、盛り付け、配膳、後片付けを協力して行っている。食事と一緒にいただき会話しながら楽しくいただいている。	食事メニューは入居者と職員が話し合って決めている。料理は職員だけではなく、入居者の中にも得意な人もいて、おかずを作ったり御飯の盛り付けや配膳などもする。食事の時間はいつも和気あいあいとしたものがある。	毎日の献立でも入居者と相談しながら決められている。買い付けにも一緒に行かれている。この家庭的な関係を継続されて頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個人に合わせて、キザミ食やミキサー食など様々な食事形態で対応している。水分摂取量の把握が必要な方は量を記録し、合わせて尿の回数なども把握し、必要時は医師に相談するなどの対応が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個人に合わせて方法で行っている。就寝時は義歯の洗浄をしている。必要時は訪問歯科の利用をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄状況チェック表を記録、参照し本人の排泄パターンを把握している。現在は全介助の方以外の5名は自立しているが下着が汚れた時の更衣の介助など必要に応じて行っている。全介助の方もトイレで排便出やすい為一人介助している	排泄の支援はおむつの使用を減らし、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。座居が困難な入居者も、おむつが取れるように支援をしている。	自立支援へ向けての取り組みについては、管理者や職員等で話し合いをされ、常に現状に即した、新たな対応をされていく事をお薦めしたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況チェック表を記録し確認している。繊維質や水分摂取を心掛けている。医師、訪問看護師に相談しながら便秘の解消に努めている。必要な方はお腹の張り具合や腸の動きを看護師に確認してもらう事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、時間は自由である。(夜間は職員が一人なのでそれ以外で)入浴嫌いな方は現在いないが、気持ちが向かない時などは足浴、清拭など本人と相談しながら行っている。	入居者は2日に一回の入浴をしている。入浴時間は入居者の希望に合わせている。今は、特に入浴を嫌う入居者はいないが、その時の気分によって拒まれた場合は、時間をおいてから入浴してもらうようにしている。	入浴をあまり好まない入居者には、その理由を推察され、入浴を楽しんでもらえるような工夫を凝らして頂きたい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>リビング、居室、食堂、過ごす場所や時間は自由で思い通りに過ごされている。布団干しや寝具の洗濯も曜日で決めているが必要時は柔軟に対応し清潔にしている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各個人の処方箋をファイルし作用や副作用を確認できるようにしている。服用の仕方も個別に対応している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴、趣味なども把握し、家事やデイサービスのレクリエーションにも参加していただいている。ご家族からの情報により嗜好品を取り入れている。家庭菜園ではみんなで水やりや収穫を楽しんでいる。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日の商店街への買い物や、ベランダの野菜の水やり、散歩、洗濯干しなど。また遠足や、外食も家族の参加や支援を含め取り入れている。その他、自宅への送迎も行っている。</p>	<p>外出可能な入居者は、職員と一緒に車椅子で商店街へ買い物にいかれている。102歳の方はアイスクリームやパンを買って来てと言われていた。ベランダでは、干し物の取り入れや、植木の水やりなどを毎日している。</p>	<p>外出時には皆さん、和気あいあいとされている。商店街の方も声をかけて下さり、入居者も応えあったりしている。地元との温かな関係をいつまでも続けて頂きたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理は事業所での預かりと、お小遣い程度の金額を本人が持ち家族から定期的にもらっている方がいる。事務所預かりの方でも、買い物の際には、支払いと受け取りは出来るだけ本人が出来るように支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自宅で使用していた携帯電話を使用したい方は必要時介助している。その他、電話は希望があればその都度介助している。家族からの手紙も喜ばれている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>みんなでテレビを囲んでゆったりとソファでくつろげる空間、食事作りの様子や音やにおいて食事を楽しみで食堂に来られる方。トイレは常に清潔を保つように、定期的な掃除に加え、汚れを見つけたらその都度掃除している。</p>	<p>玄関、廊下、居間などに切り絵や折り紙で季節感が演出されていた。習字や行事の写真なども飾られて親しみのあるリビングに出来上っている。適度な室温、ほどよい机と椅子の配置は、入居者がいつまでも話し合えるような、居心地の良い共用空間である。</p>	<p>訪問時、こちらが挨拶すると皆さん笑顔で応えてくれたり、食事の時、向かいに座られていた入居者さんに「ゆっくりして行って下さい」と温かい言葉で声を掛けられたりした。この温かで家庭的な空間を大切にされるようお願いしたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルで新聞を読んだり、リビングでテレビを見たり、居室で横になったりと、思い思いの場所で過ごされている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各入居者の居室にはすべて私物を持ってきていただいている。安全に過ごして頂くために家具の移動などは、本人、家族、職員で話し合っている。</p>	<p>居室には思い出の品や写真が飾られてあり、生活感のある楽しい部屋作りに出来あがっている。シーツは毎週交換され、汚れた場合はその都度交換される。部屋は毎日、職員が掃除とモップを使った拭き掃除をしている。</p>	<p>清潔な居室の中で、入居者は毎日落ち着いて生活されている。これからも入居者の要望を聞かれ、個性的な居室作りの手助けをして頂きたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレへの移動は、本人が出来るだけ安全に自分で行くことが出来るように、動線に椅子を設置している。個々に合わせ、歩行器、見守り、車イス一部自走してもらうなど、出来る事を職員がしてしまわないようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない